

2008年5月31日

関係各位 殿
加盟大学航空部長 殿
指導員 殿
加盟大学航空部主将 殿

財団法人 日本学生航空連盟
専務理事 熊谷 功二

滑空機の事故防止について

昨年7月28日、宮城県仙台市の陸上自衛隊霞目飛行場で東北大学所属のJA2463（アレキサンダー・シュライハー式ASK23B型）が墜落し、搭乗中の訓練生が死亡した事故で、国土交通省航空・鉄道事故調査委員会は30日、航空・鉄道事故調査報告書を公表しました。

事故原因について、報告書は「ウインチ曳航開始直後に曳航索安全装置が破断し、訓練生がその後の回復の姿勢を適切に保持することができなかつたため、機首が急角度で下を向いた状態で墜落したものである」と推測される。同機の姿勢が適切に保持できなかったことについては、曳航索安全装置が破断した後に発生した低重力環境を訓練生が失速と錯誤し、過大な機首下げ操作をした可能性が考えられる。」としています。また、同種事故再発防止のために所見が付記されました。その内容は、「本事故のように離陸直後のような低高度において曳航索安全装置が破断した場合には、特に迅速かつ適確な操縦が要求される。過去に低重力環境を失速と錯誤したため発生したと思われる事例が国内外で幾例も報告されていることから、飛行訓練の適切な段階に、低重力環境と失速の違いを十分に理解させた上で適切な訓練を実施することが望まれる。この訓練においては、特に、機首下げを強く意識し過ぎて必要以上に操縦桿を下げ位置に保持しないことに注意しなければならない。」と記されています。

報告書の所見を受けて、国土交通省航空局乗員課長より連盟に対して「滑空機の事故防止について（国空乗第97号平成20年5月30日付）」の通達が出されました。（別紙添付）

今回の事故報告書で「低重力」と言う、航空局から新しい表現が示されました。加盟各校におかれましては安全対策に沿った飛行練習を実施のことと思いますが、今一度、低重力環境における飛行について再確認をお願い致します。（参考文献：「サブGセンセーションが関わる異常運航・事故およびその防止について」（安全委員会）

新しい仲間を迎えて、活発に活動のことと思います。グライダーを志した新しい仲間とともに安全な滑空機の運航体制を再構築していきたいと思っております。

以上